

ヤマト絵日記 その17



お知らせ 令和6年度 西城紫水高等学校学習成果報告会

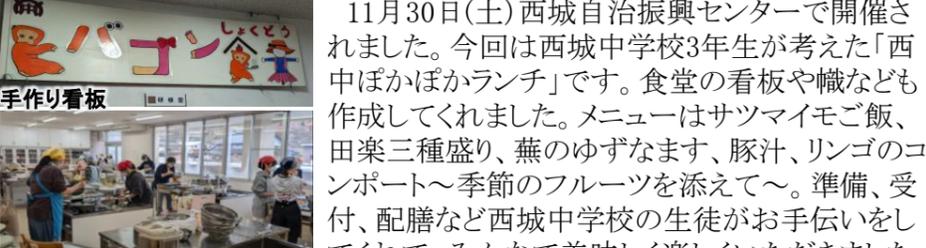
日時:1月24日(金)13:20~16:00 場所:ウィル西城2階ホール
テーマ:西城紫水高校の探求学習 是非、ご参加下さい!

西城自治振興センター大掃除

12月10日(火)、主に生涯学習自主運営教室の方達へ声掛けをして、のべ20名参加の大掃除を行いました。きれいになったオープンスペースでお茶とおしゃべりを楽しみました。寒い中、ありがとうございました。



大掃除に参加したみなさん お疲れ様でした!



大掃除の後はお茶とおしゃべり



61食の準備に大忙しの調理室

11月30日(土)西城自治振興センターで開催されました。今回は西城中学校3年生が考えた「西中ぼかぼかランチ」です。食堂の看板や幟なども作成してくれました。メニューはサツマイモご飯、田楽三種盛り、蕪のゆずなます、豚汁、リンゴのコンポート~季節のフルーツを添えて~。準備、受付、配膳など西城中学校の生徒がお手伝いをして、みんなで美味しく楽しくいただきました。

しめ縄づくり



出来上がったしめ縄

12月17日(火)、毎年恒例のしめ縄作り教室を開催しました。毎年参加される方もいます。みなさん、左縄をなう(編む)のが難しく何度もやり直をして大変苦労されていましたが、講師の方に教わりながら、しめ縄を完成することができました。参加者は「買うしめ縄もいいけど、手作りもあじがあっていいね」と喜ばれていました。



講師は西川友行さん、伊藤寿和さん、藤原謙治さん ありがとうございました

第18回五日市ひまわりの会 12月20日(水)

年に10回開催です。2年前に五日市公盛会のやすらぎ広場と長寿会が一緒になり「五日市ひまわりの会」が始まりました。今回は22名が参加のクリスマス会。古川由紀さんを迎えて、みんなで大きな声で歌いました。年末の寒い中、とても元気をもらいました。



五日市ひまわりの会のみなさん

西城町自治振興区連絡協議会新春講演会

地域に一つしかない学校や公立病院といった社会的共通資本を守るため市民活動の先頭に立ってご活躍の黒木秀尚先生(黒木整形外科リハビリテーションクリニック院長)を講師に迎え講演会を開催します。是非、ご参加ください!

開催日時:2月23日(日)10:00~
開催場所:西城自治振興センター

パソコン教室 参加者募集!

1月24日(金) 2月14日(金)
いずれも13:30~
講師:宮原賢治さん

西城自治振興区だより 2025.1.20(月) Vol.151
西城まちづくり便
〒729-5722 広島県庄原市西城町大佐734
TEL/FAX:0824-82-2175
e-mail:saijyo.jichi@gmail.com

安心・安全で元気な町づくりをめざします ~設立から12年、新たな挑戦~
超高齢化社会をいきぬく、「ここに生きる」地域のチカラ、住民力!
~高齢者がハツラツと動けば、地域は変わる~

新年明けましておめでとうございます
本年もよろしくお祈りします

さて、3戸だった常会が、ついに1戸になってしまったと過疎の厳しい現実をお聞きました。そして、西城町の昨年度の出生数は、わずか4人だったと聞いて、強い衝撃を受けました。また、高齢化率69%にもなる自治会もあり、実際に担い手不足などにより敬老会の実施も、自治会の維持さえもむずかしくなったとの声も聞かれました。街中は商店もなくなり、空き家もいつしか空き地になり、そして、今また、公共交通・高校の存続が取りざたされており、いずれは病院にも及ぶと。津波のように押し寄せる地域の衰退をみて、このままでは地域はもたないと感じています。

こうした現状をみると、どの時代にも世の中を変えるのは若い世代ですが、しかし、高齢社会の主役である高齢者みずからが、多数派である強みを逆にとり、いつまでも元気であり続けて、動き回れば地域社会は変わる!と。高齢者のお方に支えになっていただければ、道はひらけると考えています。グランドゴルフ、生涯学習教室や各自治会でのデイホーム、小地域サロンなどでのご活躍をうかがい知り、衰微したとはいえ、幸いなことに、地域はしぶとく、ふつうに立派に暮らしが営まれていると感じるのです。

そこでいま!「仕方がない、どうしようもない」を超えて、元気な町づくりに動き出しています。

地域振興部は、地域活性化の強力な一手になるようにと、ドローンサッカーに大きな夢を託してとりくみます

実際に触れて知るほど、過疎化の山間部にとっては、ドローンそれ自体にも大きな夢がひろがり、災害時に、車での運搬が困難な場所に食料や医薬品を届けられるようになることは、大きいことを実感しました。テレビでは、ポツンと一軒家の番組で空中撮影に使用されていたり、すでに、西城でも農業や追肥散布に使われているそうです。大阪万博では、この原理を使った空飛ぶクルマも登場するとか。先日、「西城で、そんなことしてるん?、知らなかった。すごいじゃない!」と、庄原のお方からお聴きしたばかりです。

このたび、ドローンサッカーに取り組むのは、ジジ・バアバたちが孫たちに教わり、いっしょに楽しみ、若いも若きも元気な風をふかせてもらい、地域スポーツとして「地域の元気力」を、みんなでつくっていきたくと考えます。それは、地域防災・地域福祉をはじめ、多くの課題に取り組む基になると考えています。

過日に、「マッチさえ擦れない孫がスイスイとスマホ繰り教えた」と詠われていました。スマホやパソコンがお手のものである孫たちに教えられて浅瀬をわたる、そうした現代社会に高齢者の生活もあるのではないのでしょうか。現に、スマホもけっこう便利に使っています。高齢者のチカラで、地域は変わる...と。おりしも新一万円顔の主は、こんな言葉を残しています。「五十、六十鼻たれ小僧、七十、八十は働き盛り、九十になって迎えが来たら、百まで待てと追い返せ」と。老いを迎えるつ、この気迫にあやかり、ドローンという最新の機器に挑んでほしいと考えています。

高齢者像もどんどん変わってきています。歳を重ねただけでは人は老いない、心の持ち方だと言われます。今、高齢者が出番のときです。そして必要なのは「自分で、始める勇気」だと言われます。

さあ、子どもたち・子育て世代と一緒にドローンを手にしてください。どうぞ、よろしくお願いします。

西城自治振興区 会長 田村富夫

人権学習講演会 テーマ「認知症」

12月7日(土)、講師に保健師を47年続けてこられた山脇明子さんを迎え「認知症」の講演会が開催されました。

始めに「♪ふるさと♪」に振りをつけて参加者全員で歌います。歌は歌えるのですが振りを合わせるのには難しいものです。認知症予防にもなるそうです。つづいて、認知症と物忘れの違い、特徴についての説明がされ、保健師活動を通しての思いを話されました。

47年前に家庭訪問をした頃は認知症は隠す時代で、狐がついたとの迷信が信じられていました。35年前は介護の方から「ご飯は食べているのに、外では食べさせてもらってないと言う」「介護していることを分かってもらえない」との話をよく聞いたそうです。40年前はボケ老人、35年前は痴呆老人、20年前に認知症と呼ばれるようになりました。令和6年1月1日には認知症基本法が施行されました。

西城は高齢化が全国と比較して40年進んでいます、いち早く地域包括ケアシステムに取り組んできたので、「認知症になっても安心なまちづくり」が実現しつつあります。

介護サービスを受けることに葛藤があると思いますが、一人で頑張ったら自滅します。介護をしていると、誰も頑張っている。一生懸命に生きて老いることを教わります。優しい気持ちになります。介護は家でもよい施設でもよい。なじみの場所、なじみの関係が大切です。

認知症予防には脳の活性化を図ることが大切で、「笑いヨガ」の紹介がありました。

最後はみんなで大笑いをし、笑顔の人権学習講演会でした。



庄原市立西城市民病院 保健師 山脇明子さん



参加者77名で笑いながらの心の健康体操

第3回 環境福祉部会報告

安森啓三部長から、庄原ふれあいセンターで上映のあった「オレンジ・ランプ」は機会があればぜひ観てほしい。若年性認知症の話です。原作の主人公は現在でも働いておられる。認知症について知ることが出来る。良い映画ですとの挨拶がありました。

今回は「認知症サポーター養成講座」です。講師に庄原市役所生活福祉部高齢者福祉課地域包括支援センター主幹 清水めぐみさん、保健師 横山美和子さん、末廣司さんを迎え3つのパートに分けた講座でした。

なぜ認知症を学ぶのかとして ①わがこととして考えてみる ②認知症とともに当事者から皆さんへ伝えたい事とは(手伝ってほしいという事を手伝ってあげる) ③認知症を理解する(病気ではなく状態) ④症状・機能障害・行動・心理状態・あらわれかたは十人十色 ⑤相談先・頼りになる場所 ⑥生活をささえる制度があること。

また、認知症になったらどこで住みたいかを決めておくこと。元気なうちからの付き合いが大切。相談できる場所(西城は「しあわせ館」)があることを知っておいてほしいとの内容でした。



第3回 環境福祉部会 11月29日(金) 参加者11名

フレフレレイル予防デー ドローンサッカー体験会

フレイル(加齢に伴い心身が衰え、健康と要介護の間の虚弱な状態)予防に庄原市社会福祉協議会西城地域支援センター主催のドローンサッカー体験会を開催しました。

参加者はコントローラーの使い方の説明を受け、練習用ゴールに向けてドローン进行操作しました。操作に慣れられると皆さん熱中され、コントローラーを持ちながらドローンを追いかけるなどして、あっという間に1時間30分が過ぎていました。翌日はモルック参加者11名がドローンサッカーを体験されました。



操作方法はすぐに習得されます



12月18日(水) 参加者10名 西城自治振興センター大集会室で開催

ドローンサッカー体験会に参加して

地域の人や高齢者がドローン进行操作するのは誰でもできるものではないと思っていた。実際にやると楽しくて、短い時間で頭を動かし、目を動かし、手を動かし、集中してやるのが非常に良かった。狭い場所でも、こたつに入っても出来る。サロンでも一人でも二人でも出来る。運動にもなり、非常にいいことだと思いました。



会長 紙川光志さん

庄原市ひとり暮らし高齢者等巡回相談員 西城地区協議会

第2回 ドローンサッカー体験会・交流会を実施

12月14日(土)、ウィル西城大ホールで第2回ドローンサッカーin西城体験・交流会を開催しました。

思い起こせば、一昨年(2023)年の12月、日本ドローンサッカー連盟広島支部(TSS)の方にすべての機材を持参していただき、ゲージの設置、ドローンサッカーの説明、ドローンの操作の指導、ドローンサッカー体験までをお願いしました。西城で初めての体験会でしたが、参加された方からは、「来年もぜひ参加したい」「機材を自治振興区で購入して欲しい」等の声をいただきました。本年度、機材を揃え、西城の方にドローンに触れて操作する機会を設け、私たち自身の力でドローンサッカーを広める取組を少しずつ進めてきました。



さんわむら・すみれ会にドローンを披露

10月17日

今回は、広島支部からは高校生4名とTSSのドローンサッカー普及を進めている指導者の計5名の方においでいただきました。5名の方が当日の26名の参加者に、ドローンの操作指導やドローンサッカー体験を指導していただきました。バッテリー交換は4名の高校生がしてくれました。指導者の方は、ゲージの設営の仕方、ドローンの操作方法、ドローンサッカーの試合ルール等、私たちスタッフに、細かく教えていただきました。また、私たち方からもいろいろと質問をしながら指導して

いただきました。特にドローンサッカーで得点が入るとセンターラインの自陣まで全員が戻らなければ攻撃できないこと、その際、副審はゴールが入った時の赤色のままにして、ドローンが全て戻ったのを確認して、白色にすることを初めて知りました。

体験会・交流会ということで、参加者と高校生との対戦も実施しました。高校生は大会に実際に出場している選手なので、高校生は得点を入れたら自陣まで全ドローンが戻ることに、参加者のチームは得点しても自陣までかえらずに攻撃できる、高校生は2名、参加者チームは5名という特別ルールで対戦したりしました。熱がこもった対戦となり、参加者のチームはお互いに声を掛け合いながら戦いました。結果は、高校生チームはさすがに強く、20点近くの得点でした。



日本ドローンサッカー連盟広島支部から操作方法などを教えていただく

指導者の方から、「ドローンサッカーはチームでのコミュニケーションがとても大切なので、とてもよい声の掛け合いができてよかったですよ」と褒めていただきました。

10時から15時まで、間に昼食休憩をとりながら。とても楽しい時間を参加者の方は過ごされたようです。私たちスタッフにとっては、ドローンサッカーの知識と技能を高める機会となりました。今後も西城の皆様はドローンサッカーに触れる機会を通して、地域を元気にしていきたいと考えております。

西城自治振興区 副会長 吉浪謙三



5年振りの五町自治会敬老会 ドローンもお祝いに飛んできました



広島支部チーム高校生がサンタになって参加者にプレゼント



元気いっぱいの日本ドローンサッカー連盟広島支部のみなさん!

第2回「ドローンサッカー体験会・交流会」に参加したみなさん